読売歌壇

小池　光　選

村なかの桂大樹に伝説のありてすなはち神の木となる　群馬県　真庭　義夫

【評】人間の何倍もの生涯を送る樹木。村にあるカツラの大木、村人の何世代もの生活を見てきた。おのずから伝説となり、神話となり、いつか神の木に。「すなはち」がいい。

「かえでだよかえるじゃないよ」と五歳児は妹の名を代わりに答える　東京都　新井よね子

【評】妹の名前は「かえで」ちゃん。五歳のお兄ちゃんは「かえる」と間違われないかと心配する。でもだいじょうぶ、誰も間違えないからね。

画像を見て「うーん」と医師の沈黙にじわり冷汗じわり手に汗　神戸市　西　和代

【評】これは怖い場面。なにも言葉を発しないお医者より怖いものはない。じわりと手のひらに汗が湧く。さあ、なんと言われるか。

二十七万キロ乗った相棒の車と最後に海を見に行く　上越市　小島　章子

われ四十の頃の身体を思ひをり横綱に勝つ玉鷲を見て　八王子市　斎賀　勇

亡き義父は無口なれどもほぉーほぉーと相槌上手で座を盛り上げし　いすみ市　安藤　敦子

甲虫の潰した匂ひ思ひ出す幼き頃の夏の夕暮れ　鹿児島県　小高　幸一

食みこぼす飯を拾ひて淋しかりわが身の老いに気づかざるる朝　伊勢原市　佐藤　治代

猫抱いてエレベーターの片隅に俯く少女五階で降りぬ　調布市　川久保洋子

古びたる世界全図の真ん中に真赤な日本予言の如く　会津若松市　佐藤　秀子

栗木　京子　選

娘の夫のブログを読みて距離あれど暮らしぶり見え密かに安堵　匝瑳市　伊藤　英子

【評】娘のブログでなく、娘の夫のブログ。程よいその距離感が歌の味わいを醸し出している。互いに立ち入りすぎないことが大事なのであろう。結句の親心が尊く思われる。

耳遠き患者と話す看護師もつられてわめく会津弁かな　会津若松市　塩沢　政子

【評】穏やかに話していては埒が明かず、看護師もつい大声になる。「つられてわめく」の迫力満点の表現が楽しい。会津弁の会話であることも場面に温もりを添えている。

打ち水に庭のかなへび身を起こし舌でなめとる飛び石の水　小平市　伊藤　圭子

【評】かなへびはトカゲの一種。背は褐色で尾が長い。「身を起こし」「なめとる」という動詞から、かなへびの敏捷な姿が伝わる。

青紫蘇も混じりて嬉し園芸のサークル終えて頂くブーケに　藤沢市　岡田　迪子

処分するタンス支へし畳のみ入居の時の青みを保つ　松戸市　山田　好司

雨を待つ原七郷の大夕焼け空を焦がして大地も焦がす　南アルプス市　駒井　春美

三体の子安地蔵に五円玉三つ置かれて我も重ねる　三田市　谷口かおる

夕されば木下の地に転ぶ蟬昨日の雀の隣に埋める　奈良市　藤原　孝子

車窓より見ゆる山頂空青くゴジラひょっこりあらわれそうな　西宮市　森　英明

包帯を巻かれた足の写メ送る介護と稽古を休む証拠に　大阪市　吉田　成美

俵　万智　選

東京はすぐに電車が来る街できみを見送る隙もなかった　大和郡山市　大津　穂波

【評】地方都市なら30分くらい電車を待つのは珍しくない。その時間が、二人の関係をはぐくむこともある。東京を否定するわけではないが、便利が必ずしもいいとは限らないことが、切実に伝わってくる。

留守番の子ヤギがドアを開けるからダッシュで行くわ夏のセールへ　碧南市　江原　冬莉

【評】上の句が「ダッシュで行くわ」を導く序詞として機能している。グリム童話を活用しながら、説得力があって面白い。

入れ替えると言えば気持ちは風であり恋の記憶の部屋ふきぬける　大野城市　亀田　巧

【評】気持ちを入れ替えようと思って気づく。つまり気持ちは風なのだと。換気するように恋を見送る下の句が、悲しくも爽やかだ。

すいている電車の席に座るとき一首のなかの漢字のきもち　東京都　富見井高志

山峡のバス待つバス停バスが来て乗る人なくて人を待つバス　岡崎市　ミカミタダシ

色付いた落ち葉を敷いてやわらかな濁音の準備をしてる秋　宇部市　常田　瑛子

習いごとをひとつもやめたことのない友が大きなクッキーくれる　加古川市　石村　まい

簡単にくっついたから簡単にはがれた付箋みたいな恋だ　山形市　誘蛾灯

夏休み明けのプールに足がつき底を知るのはうすくさみしい　東京都　境　千尋

サイコロを振って出た目の数すすむ人生ならば迷わないのに　東京都　富尾　なつ

黒瀬　珂瀾　選

良い地球選ぶみたいにまんまるのスイカに少女そっと手を当つ　鴨川市　春木　敦子

【評】スイカを吟味している少女の手。それを眺めるうちに、地球の命運を決める神様の姿が思い浮かんだ。青果売り場が一瞬で大宇宙になるなんて、スケールの大きい歌です。

負けることの大事さをまず子どもらに説いて受け身の稽古指導す　北九州市　宝満　光保

【評】柔道教室でしょうか。勝ちに固執して怪我をするよりも、上手に負けを受け入れる受け身の大切さ。武道の教えは人生の教訓にもつながる、そんな気づきがありますね。

ユーザーのレビュー読み込んでるうちに終わってしまう夏も一生も　高岡市　池田　典恵

【評】何かを買おうとしても、つい口コミの毀誉褒貶を読み込んでしまい決断できない。人の声で私たちの生は左右されるのですね。

張り替えし障子を透かし入りくる夕暮れの色やわらかきかな　福島市　冨山　貞治

冷房のなき病室に吾子産みき五十年経ても暑さ忘れず　富山市　中林美智子

子を三人抱きて疎開のあてどなき母の嗚咽が夜々に漏れしと　那須塩原市　野崎　征子

孫の代で実の生るといふ公孫樹をば孫できてからわれは植ゑけり　東京都　大村　森美

放射線治療を終えてもう一度話しておきたいひとに逢う旅　宮崎市　木許　裕夫

この土地に来て一年か道明寺駅ゆ眺める山の名知らず　柏原市　類家　有二

ねぶた祭り終り涼風吹くタベ葉むらにひそみ秋の虫鳴く　青森市　安田　渓子

◇投稿規定◇　はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌（俳）壇、○○先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから　◇毎週月曜日に掲載　右の影絵はきくのきせわた